

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1170600355
法人名	有限会社ナーシングケアセンター
事業所名	ふれあいの家
所在地	344-0064 埼玉県春日部市南1-7-5 (電話) 048-738-1221

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート張造り 2階建ての1階～2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～50,000 円	その他の経費(月額)	75,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	春日部厚生病院 ・ きむら歯科クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは駅から近いところにあり、ホームからは陸橋が見えるなど、景観も良い。また、当ホームは一般の民家を改修して建てられており、派手な看板を掲げていないため、住宅街に馴染んでいる。最近、ホーム近隣に大型スーパーが開店し、外出や買い物にも便利である。近隣住民や自治会の人達との関係も良く、地域との交流も積極的に行っている。ホームの理念である「ハートでつなぐみんなの和」の通り、明るい吹き抜けの空間の中で、各々が自分の居場所を見つけてくつろいでおり、家庭的な雰囲気を感じられる。職員の勤務状況も安定していて、職員同士良い人間関係が構築されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を理解し、外部評価の結果をもとに職員間で話し合いを行い、前回の改善課題であった、ホームの理念の掲示・周知、災害時に備えた緊急時の対応などの改善に取り組み、サービスの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義について職員全員で話し合い、内容の確認をした上で、自己評価票を完成させている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議については、意欲的に取り組み、自治会、老人会、家族の代表、市の相談員、地域包括支援センター職員、隣組の人達等が参加し、定期的にホームの運営についての報告や相談を行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱を設置したり、家族の来訪時に意見等を聴取し、ホームの運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会等の年中行事への参加や、近くの商店街に買い物に行くことで、地域との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があるが、今後、日々のケアで実践できるより具体的な理念の作成を検討している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たに入職した職員に理念について充分説明し、職員全員で理念を共有し、日々のケアの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の開催、自治会、老人会等の行事への参加、地域の商店街への買い物に行くことで、地元との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義について職員全体で話し合い、内容の確認をした上で、自己評価票を完成させている。外部評価を受ける意義も全職員が理解し、前回外部評価で指摘のあったところは真摯に受けとめ、改善のための取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	自治会、老人会、市担当者、地域包括支援センター、医師等が運営推進会議の参加メンバーとなり、カンファレンスの説明や報告を行っている。また、意見や助言をもらい、ホームの運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に利用者の状況等について報告をしたり、法令について分からないところ、運営推進会議のやり方等についてアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の勉強会や来訪時に、利用者の心身の状態、金銭管理の報告や説明をしている。また、毎月「ふれあい通信」を郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見・苦情箱を設置したり、月1回市の相談員も来所して相談に乗り、そこで出た意見等をホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や交替はできるだけ最小限にするよう心がけている。職員の離職を防ぐため、休暇の申し出にはできる限り応え、仕事と家庭の両立ができるよう支援している。職員の方が異動や退職をする場合には、引き継ぎの時間を十分にとり、職員や利用者にとって負担を軽くするようにしている。また、職員の交替に伴う不穏を防ぐため、交替時には利用者にあえて報告していない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会への参加を勧めたり、内部研修や勉強会を開催し、職員のレベルアップを図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元の同業者と定期的に交流し、情報交換ができるよう取り組んでいる。また、グループホーム協議会に参加し、空き部屋等の情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>初回アセスメント時に、本人やその家族からこれまでの生活歴を聴取し、ホームの入居後も今までの趣味や嗜好を継続できるよう馴染みの家具や食器の持ち込みをする等の工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は時間の許す限り利用者と一緒に過ごす時間をもち、お互いに支え合う関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>カンファレンス、アセスメントを充分に行い、利用者の思いや意向を把握し、その内容をふまえたプランを作成している。センター方式を利用している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員で行うカンファレンスや日々のケアの中で、情報交換を行い、それをもとにプランの作成を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごと、または、体調の変化に合わせて見直しを行っている。個別の記録ノートを確認したり、家族の意見を電話で聞いたり、関係者と話し合い、プランの見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民の憩いの場として事務室の一角を「ふれあい喫茶室」として開放し、地域福祉の推進に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望すれば、提携医療機関以外の医療機関による受診や往診も可能である。本人の希望によっては、病院の受診と定期的な訪問診療と歯科では治療計画を立てて訪問診療を行っている。緊急時に看護師が適切な医療が受けられるよう、24時間体制で医療を受けられるような体制を整備している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後ターミナルケアの実現を目指し、主治医と相談したり、アンケートをとったりして、家族の意見を把握するよう努力している。また、スタッフ同士で話し合い、今後の方針を検討している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録・個人情報の書類等は施錠して保管するなど情報の保護には充分注意している。言葉使い、接し方には、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう職員全員常に気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在、利用者全員の精神状態が落ち着いていることもあり、ホームの日課や1日の流れを強制せず、利用者の希望に応じた生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内で調理しているため、利用者の好みで、パンやお粥等の選択ができるなど、好みの献立を取り入れている。また、調理の下ごしらえや食器洗いも手伝ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回午後に行っているが、身体的な状況を把握して、極力希望に合わせた入浴をしている。入浴拒否の人には、清拭をしたり柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意とする事を見つけ、利用者の出来ることはその能力を生かし、毎日を生き生きと生活できるよう支援している。縫い物、塗り絵等利用者が作成した作品はホーム内で展示している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物等、外出には積極的に取り組んでいる。地域の行事、敬老会、カラオケショー、花見、餅つき大会、コンサート、外食等にも参加している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる夜間時間帯以外は、玄関に施錠していない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回(春・秋)災害対策の訓練を実施している。通報訓練・消火訓練・避難訓練に関する計画書も提出している。訓練については、自治会の協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分の摂取量を個別に記録している。利用者によっては、食事量や、塩分摂取量の制限等の調整を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が常に感じられるよう、花や置物、写真、絵画等を飾って、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒やベット等家具の持ち込みが可能で、居心地よく過ごせるよう工夫している。		